■夢野久作 特異な探偵小説家。玄洋社の大物杉山茂丸の子で、農園経営、禅僧、新聞記者、能楽教授など、幅広い顔を持つ。

ゆめのきゆうさく

帝国憲法発布1889=

福岡市小姓町で、杉山茂丸の長男に生まれる。幼名直樹。本名杉山泰道。すでに玄洋社創立者頭山満と親交して様々な政治活動を始めていた父が香港に行き、また京都、東京に奔走中で留守中で、母ホトリは夫の継母から家風にあわずとして離別され、継祖母のもとに引取られ、友田ハルを乳母に。祖父、継祖母の寵愛を一身に集めて、育てられる。高橋家に嫁した母と生別。父は戸田幾茂と再婚。旧黒田藩能楽喜多流師範に入門、通う姿が街で評判になり、祖父から四書の素読受け、神童の噂。父が、前年の松方内閣の選挙干渉による惨事の救済で家財を消費し尽くし、博多綱町に移居。一家の女性群が家計を支えるなか、初めて父の存在を知るような状態であった。

足尾鉍毒始・1891= 2歳

大本教・・・1892= 3歳

郡司千島探検1893= 4歳

日清戦争始・1894= 5歳

日清戦争終・1895= 6歳

白馬会・・・1896= 7歳

祖父の旧塾生の世話で、二日市町に移居し、小学校に入学。初めて新聞を読み、祖父からは、弘道館述義と詩経、易経を教えられる。父が東京の八丁堀で貿易会社を始める間、市内を2度移住後、祖父以下揃って、東京麻布区筈町の父の邸宅に移住するが、中風の祖父の願望で、祖父・継祖母と福岡市に戻る。大名尋常小学校卒業し、尋常高等小学校に入学。祖父が死去。継祖母と荒戸町通町移住し、ようやく定着。卒業し、修猷館中学校に入学。頭が大きすぎて、地球と仇名される。文学少年となり、父から将来の希望を聞かれ、文学・美術といって叱られたため、農業ということに。テニス部に入り、

韓国反日暴動1907=18歳

修猷館の選手として、福岡県の各試合で活躍。無断上京し、祖母、継母を放置している父に喰ってかかる一方、父が愛人から家族のもとに戻ってくることを条件に、卒業後兵役に入ることを約束するが、慶應大学文学部に入学。兵役志願するも受けられず、上京。麻布聯隊区に籍を移し、乙種合格ながら、志願してパス。近衛歩兵第一聯隊に配属された。肺炎で入院。

アヲヲ創刊・1908=19歳

訓練を終り退官、福岡に帰った際、大農園をつくりたいという父の命で、福岡県香椎村の土地を購入。再び上京し、慶應大学受験のため中央大学予備校に入学。一時、見習士官としての将校教育を受ける。慶應大学文学部に入学。

伊藤博文暗殺1909=20歳

韓国併合・・・1910=21歳

大逆事件判決1911=22歳

明治天皇没・1912=23歳

大正政変・・・1913=24歳

第一次大戦始1914=25歳

21ヶ条要求・1915=26歳

民本主義・・・1916=27歳

ロシア革命・1917=28歳

本格政党内閣1918=29歳

ベルリン条約・1919=30歳

大暴落・・・1920=31歳

原敬首相暗殺1921=32歳

水平社結成・1922=33歳

継祖母が死去。陸軍少尉を拝命。文学を嫌う父の命で中退させられ、香椎村の土地に(杉山農園)を創立するが、上手く行かず、母と生別したトラウマに、父周りに廃嫡の動きもあって、放浪の後、東京本郷の喜福寺で出家。名を泰道と改め、萌田と号する。禅僧雲水として、京都より大和路を歩き、吉野山、大台ヶ原山中に入るが、継母の願いで、僧名泰道のまま還俗し、杉山家を継承、(杉山農園)に戻る。鎌田昌一の娘クラと結婚。喜多流教授となり、長男龍丸が誕生。夢久庵をつくって(杉山農園)の経営に努めながら、父が社主を務めたことのある(九州日報)に社会部の新聞記者として入社。福岡市荒戸町に移住。次男鉄児が誕生。妻が肺湿潤で一時転地療養。家庭欄担当になって童話書き始め、(誠文堂)から*杉山萌園名で童話「白髪小僧」を刊行、処女作となる。。

関東大震災・1923=34歳

護憲三派圧勝1924=35歳

大震災で、築地の父の自宅が炎上、震災取材で特派され、多くのスケッチを残し、好評になるが。父周り一家が、震災のあと処理で杉山農園に一時滞在。疲労甚しく、(九州日報)を退社。博文館募集の探偵小説に、杉山泰道の名で「侏儒」を応募し、選外佳作となる。

治安維持法・1925=36歳

円本時代始・1926=37歳

三男参緑が誕生。(九州日報)が経営困難となり、東京で父が、頭山満、内田良平らと奔走。(九州日報)夕刊に、*日本で初めて切絵を使った童話「ルルとミミ」を発表。(新青年)募集の探偵小説で、初めて(父に指摘され、福岡まわりで夢想家を意味する)夢野久作のペンネームを用いた「あやかしの鼓」が2等当選し、本格的に作家としての生活に入り、「狂人の解放治療」の執筆開始、

共産党事件・1928=39歳

世界恐慌・・・1929=40歳

海軍軍縮条約1930=41歳

満州事変・・・1931=42歳

帝人疑獄事件1934=45歳

芥川直木賞始1935=46歳

この年、関西の作家仲間と創刊された(猟奇)に、「瓶詰の地獄」歯に衣着せぬコラムを発表して行く。「支那米の袋」「押絵の奇蹟」を発表し、江戸川乱歩に激賞される。福岡市黒門三等郵便局長を拝命。{(オール読物)に「骸骨の黒徳」を発表し、*部落差別を助長する作品とされて(水平新聞)で糾弾される。「狂人の解放治療」を原型に10年かけて執筆、のち日本探偵小説三大奇書の一つになる「ドグラ・マグラ」出版、その記念会を大阪と福岡で開いた直後、父が脳溢血で死去。盛大な葬儀、莫大な負債の整理と、父の愛人たちへの補償に追われ、その後始末で上京中、二・二六事件に遭ってまもなく、渋谷区南平台町の自宅で*負債報告書を受取った直後、脳溢血で急逝。(サンデー毎日)に「悪魔祈祷書」が発表され、短編小説集「少女地獄」が刊行された。

二二六事件・1936=47歳